

## 9・15原発ゼロ広島行動アピール

きょう私たちは、昨年7月1日以来、1年2カ月ぶりに「原発稼働ゼロ」の日を迎えました。私たちは、原発なしの生活がこれからもずっと続くことを心から願っています。

私たちはきょうパレードをする前に、原発をもう動かさないために市民1人1人がどのように行動していけばいいか学びました。2年半前の3・11東京電力福島第1原発事故はいまだに収束していません。原発から出た放射線は、今もなお人々に苦しみを与え続けています。

68年前、広島や長崎で原爆の放射線を浴びた人たちは、さまざまな困難にさらされながら核兵器の廃絶を叫び続けてきました。核が、確実に人体をむしばむことを知ったからです。その一方で、核兵器をつくり、使った人たちは、放射線による人体への被害を一貫して隠そうとしてきました。「平和利用」と称して原発をつくり、世界に広げました。

原発と核兵器は、姿、形こそ違え、同じものです。どちらも放射線の被害を私たちにもたらします。福島第1原発事故で放出された放射線は、広島原爆をはるかに上回るものでした。しかも、今なお放出され続けています。使用済み核燃料の処理方法は見つかっていません。

安倍首相は先日、東京五輪招致の演説で「汚染水の影響は、福島第1原発の港湾内0・3平方<sup>キ</sup>の範囲内で完全にブロックされている」「健康問題には今までも、現在も、将来も問題ない」と表明しました。本当でしょうか。放射能汚染水の問題は解決のめどすら立っていません。海洋汚染も危惧されています。福島県の県民健康管理調査では、甲状腺がんとその疑いが増え続けています。

核と人類は共存できません。被爆地広島に住む私たちは、そのことを世界の人々に訴えます。私たちは、未来のため、子孫のために、このまま原発の再稼働をしないこと、すべての原発を今すぐ廃炉にすることを求めます。

2013年9月15日 「9・15原発ゼロ広島行動」参加者一同